

⑥ 協議事項

ア. 高等学校の現況と産業教育の多様化について

イ. 高等学校における情報処理教育について

第2回福島県産業教育審議会

① 期 日

昭和45年12月3日

② 場 所

小名浜水産高等学校

③ 出席委員 6名

油井賢太郎、鈴木英一、村田春男、

高橋キヨ子、鎌田 正、日高武夫、

④ 報告事項

ア. 委員の任免について

(昭和45年11月13日付で総務部長川俣芳郎を委員に任命、前総務部長岡崎正彦の委員を解く)

⑤ 協議事項

ア. 産業教育関係の施設・設備の充実について

(学校視察結果にかかる問題を中心として)

第3回福島県産業教育審議会

① 期 日

昭和46年3月13日

② 場 所

教育委員室

③ 出席委員 10名

鈴木重郎治、齋藤初四郎、油井賢太郎、村田 春男、

鈴木 英一、鎌田 正、高橋キヨ子、日高 武夫、

和田 敬久、北橋 徹

④ 報告事項

ア. 昭和46年度福島県産業教育関係予算ならびに研修行事について

⑤ 協議事項

ア. 情報処理教育のすすめ方について

(とくに、商業科・工業科を中心として)

(3) 産業教育関係学校視察

① 期 日

昭和45年12月2日～3日

2 視察校

県立平商業高等学校、県立勿来工業高等学校

県立磐城農業高等学校、県立小名浜水産高等学校

③ 参加委員 6名

油井賢太郎、鈴木 英一、村田 春男、高橋キヨ子、

鎌田 正、日高 武夫

④ 視察内容

ア. 産業教育諸学科の経営上の要望事項聴取

イ. 産業教育施設・設備ならびに使用状況視察

が肝要である。そのため、次のような点に重点をおき、担当教員の指導力を高める努力をした。

(1) 学習指導の個別化を図るにはどうすればよいか。

(2) 指導内容の精選集約を図るにはどうすればよいか。

(3) 生徒指導の効果をあげるにはどうすればよいか。

(4) 定時制・通信制課程の効果的な管理・運営を図るにはどうすればよいか。

1. 定時制・通信制教育研究会

(1) 目 的

定時制・通信制教育の諸問題について研究協議を行ない、担当教員の資質を高め、授業の改善と充実を図る。

(2) 期 日

昭和45年7月20日～7月22日

(3) 会 場

国立磐梯青年の家

(4) 講 演

「定時制・通信制教育の経営管理について」

福島県立若松商業高等学校長 前田 正夫

「定時制・通信制教育における学習指導」

福島県立福島中央高等学校長 藤井 勇

(5) 分科会研究協議題・発表者・助言者

① 第1分科会

「教育相談はいかにあるべきか」

発表者 県立福島中央高等学校 佐久間益郎

助言者 教育庁高校教育課指導主事 成田 政英

② 第2分科会

「定通併修や技能連携をどのように進めたらよいか」

発表者 県立郡山工業高等学校 渡辺 一朗

「 」 「 」 大河原博美

助言者 教育庁高校教育課主任指導主事 佐竹 俊彦

③ 第3分科会

「ひとりひとりの生徒に国語の力をつけるにはどうすればよいか」

発表者 県立いわき中央高等学校 外山 士郎

助言者 教育庁高校教育課指導主事 飯島 護

④ 第4分科会

「地域および生徒の実態に即した家庭科の指導はどうか」

発表者 県立安達高等学校大平分校 花房 元

「 」 「 」 針道分校 藤田 洋子

助言者 教育庁高校教育課指導主事 海野 清頼

2. 第19回東北地区高等学校定時制・通信制教育振興総会ならびに第22回東北地区高等学校定時制・通信制教育研究協議会

(1) 趣 旨

定時制・通信制教育について、東北各県相互の理解を深め、現状および将来における諸問題について研究討議を重ね今後の振興を図る。

(2) 期 日

昭和45年10月15日～17日

第8節 定時制・通信制教育

定時制の生徒数は減少の傾向にあるが、そこで学ぶ必要のある勤労青少年のために、充実した教育内容で教育すること